

開戦の12月 語り継ぐ

恒例の「戦争を語り継ぐ会」を、12月10日(日曜日)に坂戸駅前集会施設で開催しました。今回の語り部は、坂戸市緑町の今野強(つよし)さん。参加した約20名の方々は坂戸市在住の人が多くお互い周知の仲ということもあって、今野さんの語り口も相まって、会は終始和気あいあい、なごやかな雰囲気で行われました。

今野さんのお話しは、生まれた育った板橋でのご家族やご近所の環境、そして、板橋での空襲の話、それから戦後の食糧難の時代の話へと続き、最後に「安倍政権の9条改憲」阻止への運動が九条の会にも求められるとの話で締められました。

今野さんのお話しの後、参加者の間で大いに議論となったのが、2歳の頃の空襲の記憶について。この会の前にも、今野さん宛てに「人間の記憶は3歳頃から」とのご意見があったそうです。

この件に対して今野さんは「打ち上げ花火も全くない戦時中、まるで打ち上げ花火のような閃光弾は鮮明に覚えている」と述べ、同じように3歳未満での記憶を持つ数名の方々から「命にかかわるような強烈な記憶は、たとえ3歳未満でも覚えている」といった賛意が相次ぎました。

子が語る戦中戦後の時代(前編)

緑町 今野 強

はじめに

今日の語り部の予告文に「焼夷弾炸裂と母に背負われて防空壕へ」とあります。このことについて、ある方から何日か前に次のようなメールをいただきました。「人間の記憶とは3歳位からなら確からしい。あなたが背負われて防空壕…は、何回も聞かされてあたかも記憶していると錯覚している体験の可能性あり…。私も母からお父さんはアンタを抱きながら、酔ってるから、あっちへヨロヨロ。こっちへヨロヨロ、と語るものだから鮮明によみがえり…。上海でのあり得ない1歳の記憶」。私は「ご指摘ありがとうございます」のご返事をいたしました。

焼夷弾の炸裂の脳への刻印、これは間違いないことです。

「母に背負われて防空壕へ」、これはあるいは聞かさ

れた話が記憶となった可能性があるかもしれません。記録しているわけではありませので確認の仕様がありませんが、恐怖体験というのは記憶に刻印されるような思いがしています。

生まれたのは

私は東京都板橋区で、1943年(昭和18年)2月24日、国道17号線に面した百々医院で生まれました。一貫20匁あり、鉗子分娩で難産だったようです。

板橋区への本格的な空襲が始まったのは、板橋区の資料によると1944年12月とあります。その後は1945年の8月、私が2歳半の終戦まで空襲はあったわけです。

私は夜空に炸裂する焼夷弾の閃光を美しいと思った記憶、そして防空壕に必死に逃げ込んだ時のけたたましい恐怖は、心には鮮烈でも情景は幻のように浮かぶのです。



私の小学校入学までの写真は、誕生半年後の1943年9月に母の実家、そして1949年4月の小学入学時しかありません。ですからその間の記憶を呼び起こす客観的な材料がありません。飢えの記憶はすべて私の心の中のものでした。(次号に続く)

学徒出陣・撃沈・被弾

泉町 田中一郎

昭和18年(1943年)8月台北の高校を出た私は、9月1日東京帝大文学部東洋史学科に入学した。その入学式当日、安田講堂の入口で「一旦緩急アレバ義勇公ニ奉ジ」と教育勅語の一文を印刷した紙片を渡された。法文経理工農医全学900名の入学生が着席すると厳かな国歌演奏が始まり総長の式辞朗読の後、臨席の東條陸相の祝辞があり、その後「法文経農の4学部」の学生諸君は、国家存亡の危機に当たり、一旦学を置いて国難に当たって戴きたい」と喝破された。この要請に応え法科の学生代表が「我ら国家存亡の危機に際し、一身を投じて救国の劣兵たらん」と決意を表明、満場の拍手を浴びた。

九条の会さかど 早春のつどい

日時 2月25日(日曜日)13時から16時

会場 坂戸駅前集会施設(2階)

参加費 1,500円(食事と飲み物)

一緒に食べて、一緒に飲んで、一緒に語りあって!

9条のこと、平和のこと、伝えたいこと、やりたいこと、一人ひとりの思いに耳を傾けましょう。食事と飲み物の用意をします。ご参加を2月22日(木曜日)までにご連絡ください(049-283-4723 栗原)

9月27日、本郷区役所で徴兵検査があり、私は心臓肥大の診断で丙種だった。

10月21日、首都圏の大学高専の文科系学生8千の出陣学徒の壮行会が神宮球場で開催された。そして12月1日、私は東部五部隊に入営することとなり、赤襷(たすき)をかけて市川まで出かけた。ところが市川の部隊は東部二部隊ではないか。門衛の兵隊さんに聞いても五部隊は何処だか判らない。まごまごしているとサイドカーで現れた将校さんが「五部隊は柏だ。これに乗って行け」と指示してくださり、私はサイドカーで柏の東部五部隊に入営した。直ぐ衣服を着用せよと出された軍服は丙種という通知で80kgの私には間に合わないものばかり。軍服は着てもボタンがかからない。ズボンが胴回り80cmでは、1.2mを超える私には着られない。靴も冬の靴下を履くと27cm大の靴でないと間に合わぬ。とんでもない丙種が来たんだと班長に笑われたが、翌日も靴も真新しいのを用意してもらった。その後、幹部候補生の試験があり、昭和19年1月中旬、斉藤(明大)山根(千葉大)と私の3人が三島の野戦重砲部隊へ転属することになった。

2月12日、3人で三島に赴き、各地から集まった30名の幹部候補生が大砲の訓練を受けることになった。その夜、私は増田中隊長に呼ばれ、英文の資料を訳してもらいたいとの要請を受けた。大本営と陸大から来る英文を10枚ばかり翻訳して提出すると、夕方30個の大福を御苦労賃だと云ってくださった。もちろん訓練に参加しない私の立場への擁護だと思うが、仲間もみんな大福の魅力には勝てず、私の翻訳仕事に大賛成だった。訓練は沼津で3ヵ月、豊橋でトンツーの訓練1ヵ月、大阪羽曳野で砲撃訓練、そして最後が久留米での仕上げで豪州のチモール島へ赴任する筈だった。

昭和20年1月6日、門司で輸送船東雪丸7千トンに乗る。一夜明けた7日、広島、松山から物資や兵員を乗せた船が到着。10数隻の船団を組み、駆逐艦を先頭に出向するが、まだ九州の島々が見える時、先頭を行く1万トン級の船が魚雷をくらって巨大な水柱を上げ、船団はバラバラに。我々の船は朝鮮寄りに航行する。

その後ゆっくり中国の青島方面に航行、黄河の流砂で濃緑色の海水に、これじゃあ潜水艦も見通しがきかないだろうと笑っていたが、とんでもないと監視長に叱られた。

それから数日、中国大陸に沿って南下し、台湾海峡に入り、台南沖あたりで海軍の駆逐艇が護衛のため現れたが高雄に近づくと離れていった。その後夜を徹して潜水艦が追尾し、早朝3時に2発の魚雷を発射した。船室にいた我々は脱出したくても真っ暗の上、船体が傾いて何処に階段があるのかが判らない。自分の持ち物も判らず、何も持たずに右往左往するだけ。そのうち艦上から懐中電灯を照らしながら何人いるかと声をかけてくれる。下ろされた縄梯子で甲板に出ると、船は30度近く傾きボートに乗員を収容している。

というわけで、着の身着のままボートに乗り移り、軍刀、背囊(はいのう)、手持ちの写真など小物類は、全部東雪丸と一緒に海底に沈んでしまった。

そして1ヵ月間、秘密保持のため高雄の家政女学校に監禁されてしまった。

もうチモール島へ行く便もなく、地元の高射砲部隊に編入されたが、大正11年製の古い大砲で、高度2千メートルが有効射程、これじゃ射てないよと嘆いたが、2月25日、敵の哨戒機が1機、フィリピンから飛来。好機到来とばかり砲撃したが射手の未熟もあってものにならず、かえって我が方の高射砲陣地を知らせたようなものだった。

2月16日早朝、戦爆合同の編隊が来襲、滅茶苦茶に陣地を破壊され、私は被弾して、それから先は知らない。気がついたのは台南の陸軍病院で3月1日だった。

「沖縄に核」うやむやは許されない

西坂戸 大山 茂

昨年9月に放映された「NHKスペシャル『沖縄と核』」を視ました。45年前の本土復帰までアジアにおけるアメリカ軍の“核拠点”とされてきた沖縄。これまで、その詳細は厚いベールに包まれてきました。

しかし、一昨年、アメリカ国防総省は「沖縄に核兵器を配備していた事実」を初めて公式に認め、機密を解除。これを受け、いま「沖縄と核」に関する極秘文書の開示が相次ぎ、元兵士たちもようやく重い口を開き始めました。

そこから浮かび上がってきたのは、“核の島・沖縄”の衝撃的な実態でした。1300発もの核兵器が置かれ、冷戦下、東西陣営の緊張が高まるたびに、最前線として危機的な状況に置かれていたこと。

更には、「核」の存在こそが、沖縄への米軍基地集中をもたらす要因となっていたという新事実…。1950年代から急速に部隊の核武装化を進めようとしたアメリカと、国民の見えない所に「核兵器」の配置を望んだ日本政府、両者の思惑の中、“唯一の被爆国”の番外地として、重すぎる負担を背負うことになった沖縄。新資料と関係者への証言から、沖縄と「核」の知られざる歴史に光が当てられました。

核の拠点にさせられていた過去を封じられた沖縄の黒い歴史。とりわけ爆発寸前の重大事故があったことは衝撃的でした。一步間違えれば沖縄本島の全てが吹っ飛ぶ可能性もあったことには啞然とさせられました。

NHKの報道姿勢がとかく政府寄りになりがちと懸念されていますが、この番組において事実を真正面から取り上げた姿勢は高く評価したいと思います。「北朝鮮の核ミサイル」の脅威を声高に唱えている、日米両政府は、この番組で露呈された事実をどのように申し開きしていくのか、鋭く問われるのではないのでしょうか。今のところ、日米双方とも口を閉ざしているようですが、「沖縄に核兵器」は厳然たる歴史の事実。曖昧にしたままでは許されません。

「安倍9条改憲NO！」署名を！

お配りした署名用紙は、4月20日(金曜日)までに、運営委員に届けるか、「〒350-0224 坂戸市山田町10-53 小林忠夫」宛てに、ご郵送をお願いします。

今後の運営委員会(会員なら誰でも参加できます)

2月22日、3月22日、4月26日(第4木曜日10時～12時)
会場は、北坂戸駅東口の坂戸市文化施設オルモ1階。